

飼料用米生産農家の皆さまへ

自家採種するときの注意点

近年、イネばか苗病が問題となっています。飼料用米等でやむを得ず自家採種をする場合には、次のポイントを守りましょう。

1. 発生田の種子は使わない

「ばか苗」病等が発生した水田の種子は病原菌を持っている可能性が極めて高いです。発生田からの自家採種は絶対やめましょう。

2. 塩水選を行う

病原菌に感染しているリスクが高い未熟種子は塩水選によって取り除くことができます。また、発芽率が高く、生育のよい種子が得られます。

(表) 塩水選に使用する溶液の調製法

種籾種類	水20ℓ当たりの溶解量	
	食塩 (kg)	硫安 (kg)
うるち種 (飼料用米・主食用米)	4.0~4.3	5.0~5.5
もち種	2.5~3.0	3.0~4.0

3. 化学合成農薬を使用する

飼料用米でも必ず種子消毒をしましょう。なお、温湯消毒や微生物農薬は、化学合成農薬に比べると効果が劣ります。

4. 周辺環境の清浄化

稲わら、米ヌカ、籾殻等も伝染源にもなります。特に、前年に「ばか苗病」の発生があった場合は、種子の保管場所や作業場の清掃、資材の消毒を徹底するなど周辺環境からの伝染も防ぎましょう。

注意

本田で「ばか苗病」が発生すると、胞子が飛んで周りのほ場にも伝染します。そのため、採種ほ場では種子生産を中止する事例が出ています。種子消毒効果を高め、県内全域で「ばか苗病」が発生するリスクを下げましょう。